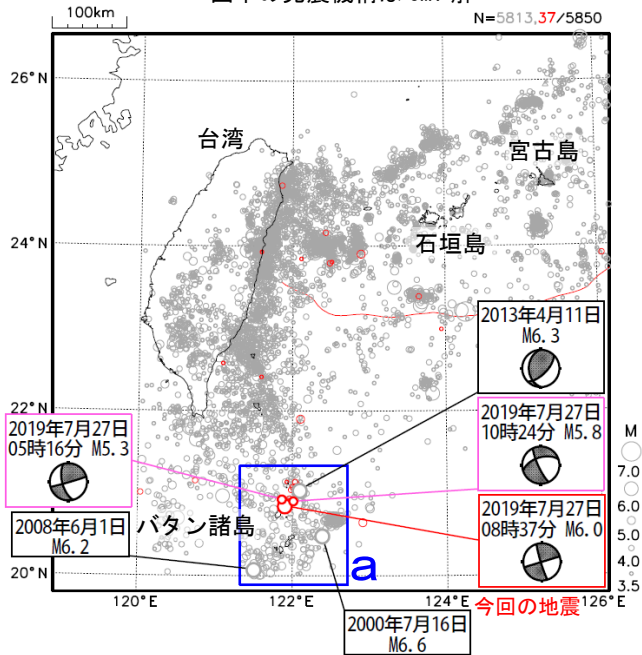
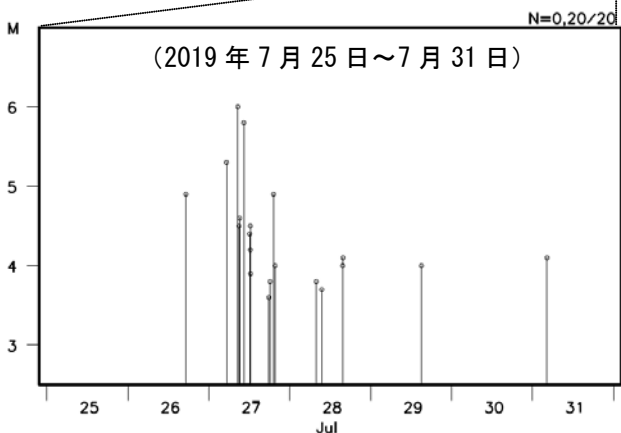
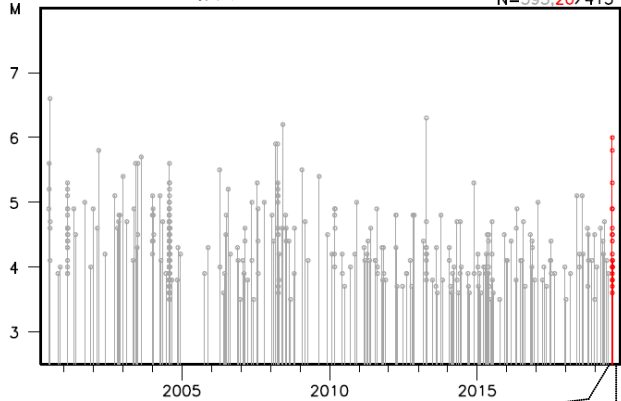


## 7月27日 フィリピン付近の地震

震央分布図  
(2000年7月1日～2019年7月31日、  
深さ0～100km、 $M \geq 3.5$ )  
2019年7月以降を赤で表示  
図中の発震機構はCMT解



領域a内のM-T図



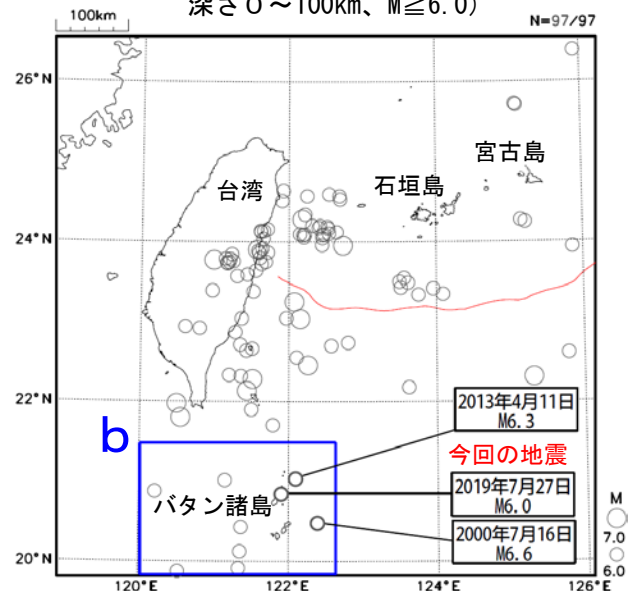
2019年7月27日08時37分に、フィリピン付近でM6.0の地震（日本では震度1以上を観測した地点なし）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震により、フィリピンのバタン諸島では死者9人、負傷者64人、家屋全壊・半壊を合わせて266棟等の被害\*が生じた（7月31日現在）。

今回の地震の発生前後には、05時16分にM5.3の地震が、発生後の10時24分にM5.8の地震が発生している。

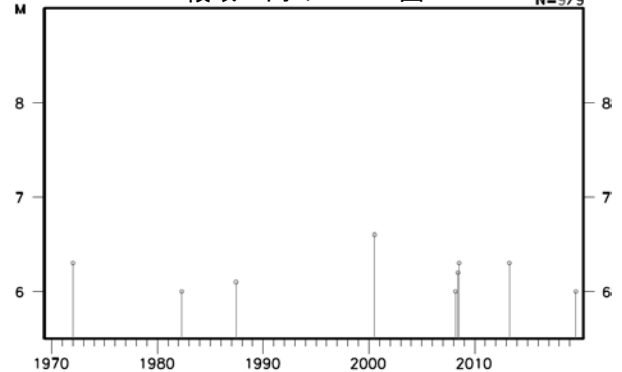
2000年7月以降の地震活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、2000年7月16日にM6.6の地震（日本では震度1を観測）が発生している。

1970年以降の地震活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M6.0以上の地震が時々発生している。

震央分布図\*\*  
(1970年1月1日～2019年7月31日、  
深さ0～100km、 $M \geq 6.0$ )



領域b内のM-T図\*\*



\*今回の地震の被害については、OCHA(国連人道問題調整事務所)による。

\*\*図中において、今回の地震、及び2000年7月16日のフィリピン付近の地震 (M6.6)、2013年4月11日の台湾付近の地震 (M6.3) の震源要素は気象庁による。その他の震源要素は米国地質調査所 (USGS) による (2019年7月31日現在)。

気象庁作成

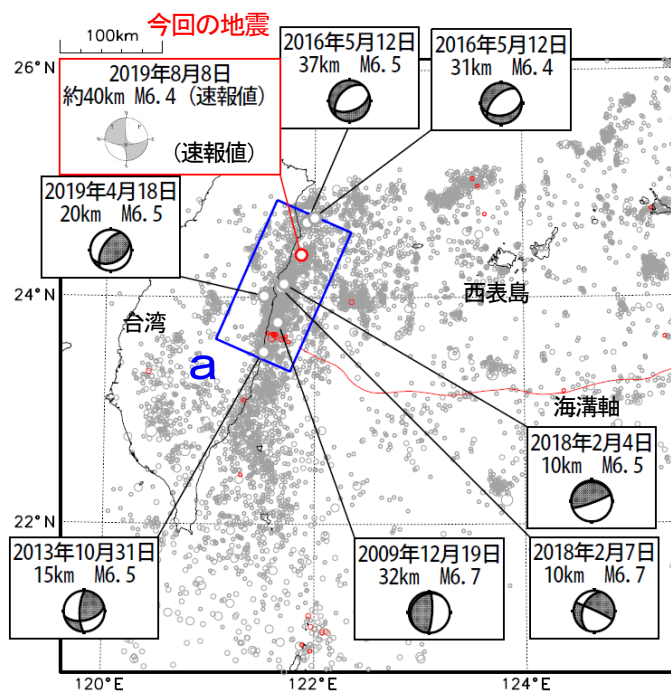
## 8月8日 台湾付近の地震

震央分布図

(2009年10月1日～2019年8月8日、  
深さ0～90km、 $M \geq 3.0$ )

2019年8月以降の地震を赤く表示

図中の発震機構はCMT解



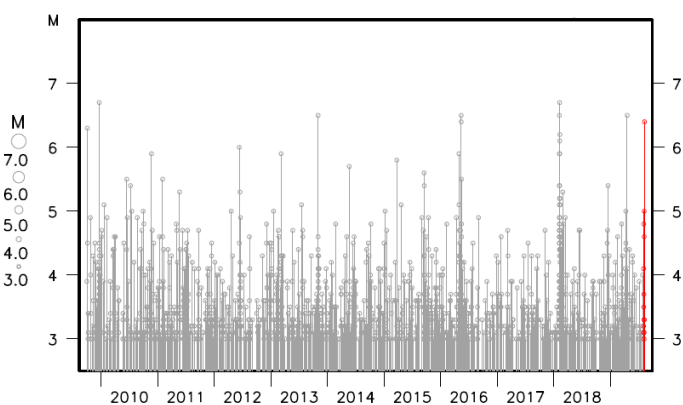
2019年8月8日6時28分頃に台湾付近の深さ約40kmで $M 6.4$ の地震（日本国内で最大震度2）が発生した（値は速報値）。

この地震の発震機構（CMT解、速報値）は、北東—南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

2009年10月以降の活動をみると、この地震の震央周辺（領域a）では、 $M 6.0$ 以上の地震が時々発生しており、2019年4月18日の $M 6.5$ の地震では、日本国内で最大震度2を観測した。

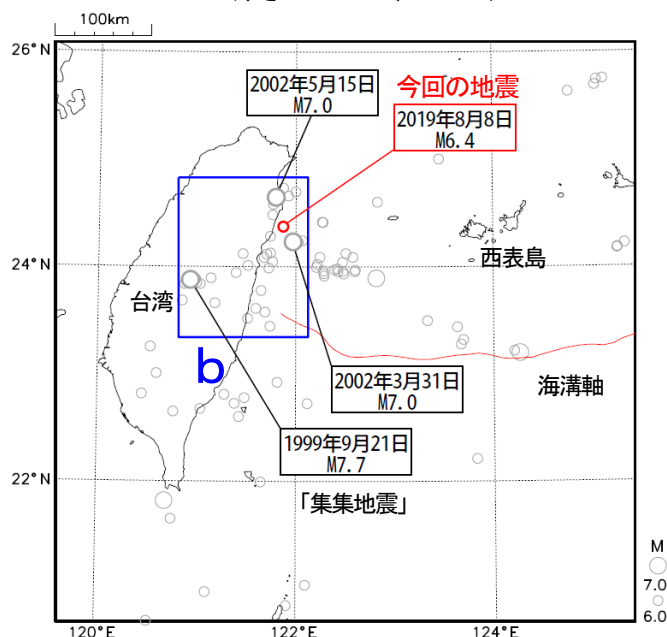
また、2018年2月の地震活動では、2月7日の $M 6.7$ の地震を最大規模として $M 6.0$ 以上の地震が4回発生し、台湾で死者17人などの被害が生じた。

領域a内のM-T図



震央分布図

(1994年1月1日～2019年8月8日、  
深さ0～100km、 $M \geq 6.0$ )



1994年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、1999年9月21日に $M 7.7$ の集集地震（日本国内で最大震度2）が発生し、台湾では死者2,413人、負傷者8,700人の被害が生じた（「宇津の世界被害地震の表」による）。

領域b内のM-T図

